

2016年2月14日

福音書からのメッセージ

悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。

(ルカによる福音書4章13節)

先週の水曜日から大齋節に入りました。聖公会では大齋節の最初の主日には、荒野の誘惑の箇所が読まれます。

イエス様は荒野で四十日間、何も食べずに空腹をおぼえられました。そこに悪魔は三つの誘惑をおこないます。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ」、「もしわたしを拝むなら、この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう」、「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ」、イエス様は身も心も極限状態でしたが、聖書のみ言葉をもってこれらの誘惑を退けられました。

同じようにわたしたちもこの物語を読むときに、イエス様のように悪魔の誘惑に対し、聖書の言葉をもって打ち勝ちたいと思うのではないのでしょうか。

しかし残念ながら、わたしたちはそれが出来ないことを知っています。ちょっとした誘惑にさえ負けてしまう。神さまのことを第一に考えずに、自分のことを優先して考えてしまう。そのような弱い自分のことを、よく知っているのです。

さらに、「イエス様、あなたが本当に救い主だったら」、「イエス様、あなたが本当にわたしたちのことを愛してくれているのなら」、そのような叫びで、わたしたちは時としてイエス様を誘惑しているようにも感じるのです。

わたしたちは毎年この時期に、この誘惑物語に聞きます。それは何故でしょうか。あなたがたは悪魔から誘惑を受けるかもしれないが、イエス様のように聖書の言葉ではねのけなさい。それもあつてでしょう。



しかしわたしは思うのです。わたしたちは時にイエス様を誘惑してしまう者であることを自覚するために、このみ言葉に聞くのではないかと。わたしたちは神

さまのみ心ではなく、自分の思いを優先して神さまを試みてしまう、そのような弱い人間なのです。そのことに改めて気づくために、わたしたちはこの誘惑物語に聞くのではないと思うのです。

イエス様が誘惑物語で悪魔を退けた聖書のみ言葉は、そのようなわたしたちに対しても語られています。「人はパンだけで生きるものではない」、「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」、「あなたの神である主を試してはならない」。これらのみ言葉に、いつも忠実に生きていけるでしょうか。自分の力だけでは、無理なのではないのでしょうか。だから、わたしたちにはイエス様が必要なのです。イエス様が十字架によってわたしたちの罪を背負い、復活してわたしたちと共にいて下さるから、わたしたちはこうして歩いて行くことができるのです。

この大齋の期間、自分を見つめ直しましよう。そして、このようなわたしたちをも受け入れてくださる神さまの愛に感謝していきましょう。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>